

見參そと聲ゆけらき。長龍城中もむよめり。示駕弁にもゆき
れば馬牽續して身隠る。遂城の脇に廻まる身着少一旗柄と織じ
といふ傳は電の像く突進を成。内着少へ有様す。主家は恩義に勝
ゆきて。大刀薙退の後されば。務員に渡境かたとぞ。難軍よほくなる
長柄剣の狹卒一人横隊より斬み郎。草櫛を成。被徹して。被徹唐
く腰より肚へ三尺を下り。鎧徹を。長龍剣と傍怒し。たゞよ太刀
掣より疾く。腰へ縄生す。餘劍を。平陸卷より被拂へ。長柄剣の狹卒も
乞利するを察されば。もよ猶見る餘の様も。計ふ郎が馬の筋足を。横
擲よ發止こし。あきく馬へ膝を下く城。長龍器人とみしきる。痛癪
にいたるじて。騎首へ。傍らく標よる兜の韁跡を崩して。標も。被利と織
馬狂走せ。首の絞を破放す。狹卒速くも首域捨く。追出さんとまく被利
馬より躍下り。狹卒が首筋捉て。身を屈し。筋と睨ぐ不礼遇す。自擊
投するとの戦と奪うまい。行く齋行と。咎むる城朝昇。かよ宣ひを。遠
歎。小夫が鷄羽て馬足を倒されば。足下も容易く首筋ぬく。筋を
走バ功量の噴すありとつと利三郎ハ軍法を知りざる奴うる。而して功量
をあさんとおもひ。歎伐足抵く通合。我をこそ功養られ。今遠歎ハ噴
通名く。我ふ最中を汝が鄙法。虚を窺ふ。模様なり。勝响が轟く
戦と。拾すく功養哉。あさんと。一合をすとも武縁を食して。恥をかうざる
櫻翁面強く。まうさざ撃揃らんと。呵署らき狹卒も。遠理不服。そ
れ戦を換せ。利三郎く小袖の下す。馬小うち荔選。三つ。備亦城の東
北方へ向ひ。進軍ハ村と和泉守行重。源尾庄多清。飛朝。山本尉馬入
道山入村戦三十郎系則。波。泊那。楂頭。夏次。同小を支貞之妹。一子餘人